

■報告

2009年度 教育開発支援機構 FD 推進センター主催 「第4回FDフォーラム」を開催

3月15日(月)、市ヶ谷キャンパス外濠校舎4階S407教室で、第4回FDフォーラムを開催しました。お茶の水女子大学 教育開発センター教授の半田智久氏を講師にお招きし、「GPA 制度の活用—大学における成績評価とは」と題したこの講演は、遠隔会議システムを利用して市ヶ谷、多摩、小金井の3キャンパスにて同時に開催され、学内教職員を中心に50名超の参加がありました。

現在、多くの高等教育機関においてGPA(Grade Point Average)制度が導入されており、教育の質を保証するための成績評価システムとして活用されています。本来、GPA制度は、成績評価を数値化し、客観的に判断するツールとして用いられるものですが、授業科目の種別や教員個々の裁量などにより、成績評価方法に差異が生じるという問題をはらんでいます。「絶対的相対評価とfunctional GPA」という半田教授の提案は、それらの問題を解決するもので、参加者はメモをとりながら熱心に聞き入っていました。

本学においても2008年度より、GPA制度が導入されていますが、今回のフォーラムを通じて「GPA制度とは何か」をあらためて問うことにより、本学におけるGPA制度の活用、成績評価の在り方について再考する絶好の機会となりました。

GPAは今やグローバルスタンダードとして確立しつつあります。全世界を視野に入れると、発祥地である米国流をそのまま導入している訳ではなく、韓国やインドでは各国の制度と折衷させながら有効に活用しています。「functional GPA」は、日本的几帳面さ、繊細さを生かした日本流のGPAとして、今後の発展が期待されます。FD推進センターとしても、これらの考え方も踏まえ、更なる教育の質保証のためのGPA制度の活用方法について、積極的に提案を行う予定です。

総合司会は川上忠重FD推進センター長(理工学部教授)が担当しました。多摩、小金井の参加者からも積極的に質問が寄せられ、予定していた1時間の質疑応答の時間が短く感じられるほどでした。「教員間の原成績の極端な評価の違いにより生じる歪みの解決方法は」といった教員の視点からの質問や、「functional GPAの最高点が4.5である理由を学生に窓口で聞かれた際に、どのように説明すればよいか」という職員の視点からの質問もあり、キャンパスを超えて活発なやり取りが展開されました。お茶の水女子大学にて計画中の「カラーコードベンチマーク(科目の負荷を色別に成績表に反映させる仕組み)」の取り組みについてもご紹介いただき、半田教授は学内にて展開される事例についても詳細にわたってご説明されました。

また、基調講演終了後にはポアソナード・タワー25階のスタッフクラブにて半田教授を囲んだ情報交換会も開催され、引き続き熱い意見交換がなされました。

第4回フォーラムはこれからの本学におけるFD推進において、確かな手ごたえを感じるフォーラムとなり、盛況のうちに幕を閉じました。

次回の第5回FDフォーラムは、2010年8月27日(金)13:00から、市ヶ谷キャンパス外濠校舎にて開催を予定しています。